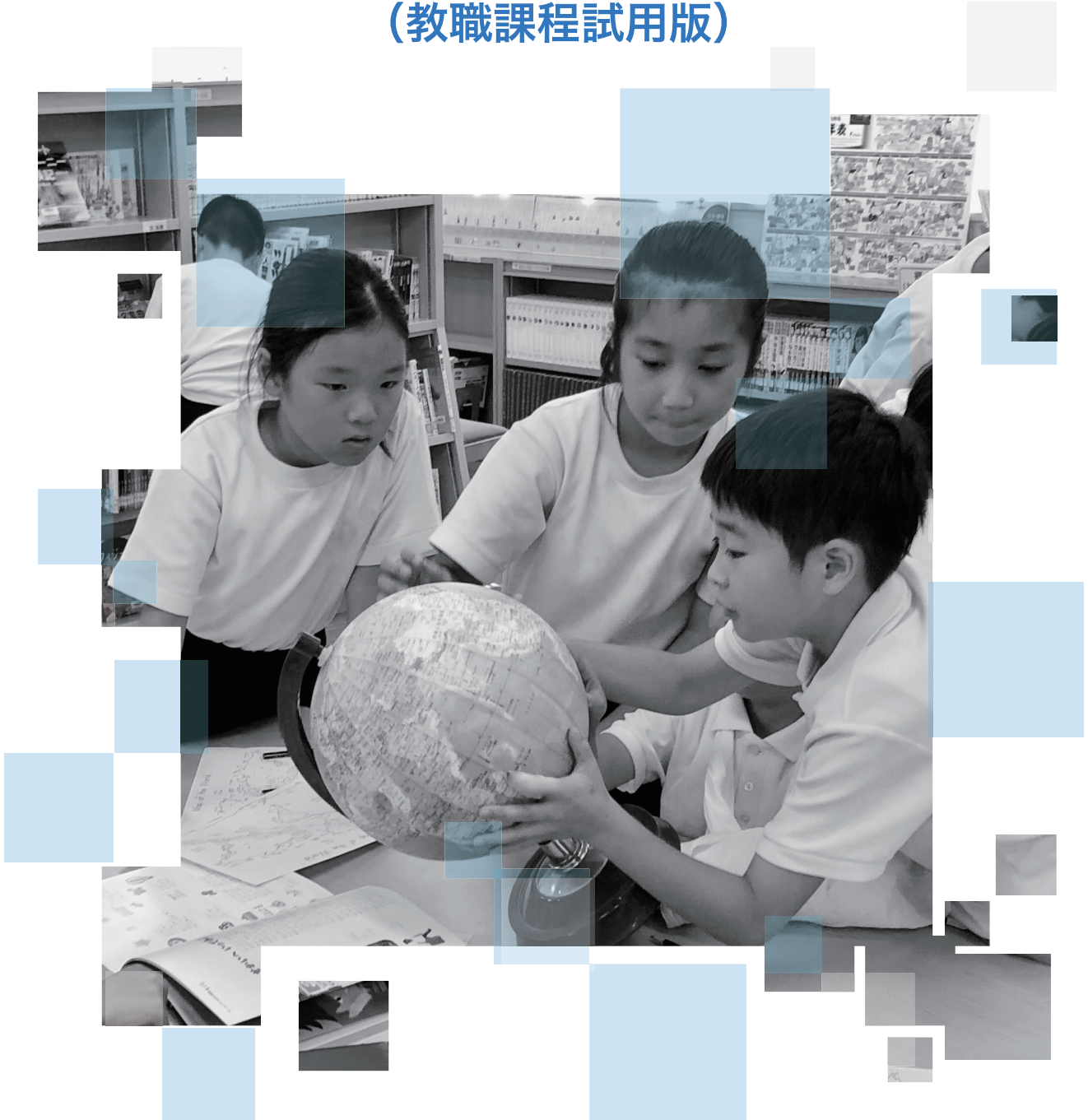


原作：『言語教師のポートフォリオ』(J-POSTL)

Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages

小学校英語指導者のポートフォリオ (J-POSTLエレメンタリー)

Japanese Portfolio for Elementary English Educators
(教職課程試用版)



大学英語教育学会 (JACET) 教育問題研究会

<http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

原作：『言語教師のポートフォリオ』(J-POSTL)
Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages

小学校英語指導者の
ポートフォリオ
(*J-POSTL* エレメンタリー)
Japanese Portfolio for Elementary English Educators
(教職課程試用版)

大学	
学部	
学科 (コース)	
学籍番号	
氏名	

大学英語教育学会 (JACET) 教育問題研究会
<http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

2018 年 8 月 25 日発行

『小学校英語指導者のポートフォリオ』（通称：J-POSTL エレメンタリー）（教職課程試用版）

Japanese Portfolio for Elementary English Educators (J-POSTL Elementary) (For Pre-service Elementary EFL Teacher Education)

原作：『言語教師のポートフォリオ』（J-POSTL）（©欧州評議会, JACET 教育問題研究会, 2014）

Original: *Japanese Portfolio for Student Teachers of Languages* (©Council of Europe, JACET-SIG on English Language Education, 2014)

開発・編集：早稲田大学神保尚武科研グループ（2016～2018 年度）

大学英語教育学会（JACET）教育問題研究会，2018 年

Developed and compiled by the grant-in-aid for scientific research group (leader: Hisatake Jimbo, Waseda University) and the JACET-SIG on English Language Education, 2018

本ポートフォリオ及び関連文書は以下のウェブサイトからも無料でダウンロードできます。

<http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

This publication and other related documents are also available for download at the website above.

目 次

編集組織・編集方針	4
J-POSTL エレメンタリー【教職課程試用版】の構成と使用法	5
1. J-POSTL エレメンタリー【教職課程試用版】とは / 5	
2. 試用期間 / 5	
3. 構成と使用方法 / 5	
3.1 構成 3.2 使用方法	
4. 利用方法 / 7	
自分自身について	8
1. 過去の英語学習経験 / 8	
2. 教職課程に対する期待 / 8	
3. 教育実習に臨む前の期待と不安 / 9	
4. 教師の資質・能力 / 9	
自己評価記述文	11
I 教育環境 / 11	
A.教育課程, B.目標とニーズ, C.語学教師の役割	
D.組織の設備と制約	
II 教授法 / 12	
A. 話す活動 A-1. やり取り, A-2. 発表, B. 書く活動, C. 聞く活動	
D. 読む活動, E.文法, F.語彙, G.文化	
III 教授資料の入手先 / 14	
IV 授業計画 / 15	
A.学習目標の設定, B.授業内容, C.授業展開	
V 授業実践 / 16	
A. 授業案の使用, B.内容, C. 児童との交流,	
D.授業運営, E.教室での言語	
VI 自立学習 / 18	
A. 児童の自律	
VII 評価 / 18	
A.測定具の考案, B.評価, (C. 自己評価と相互評価),	
D.言語運用, E.国際理解, E.誤答分析	
J-POSTL エレメンタリー 用語解説	20
個人学習・実践記録表	24
① 英語学習・実践の記録 / 24	
② 継続的な学習・実践の記録 / 26	

編集組織・編集方針

編集組織

監修：神保尚武（早稲田大学名誉教授）

編集統括：久村 研（田園調布学園大学名誉教授）

編集委員：酒井志延（副統括）（千葉商科大学教授）

清田洋一（明星大学教授）

長田恵理（國學院大学准教授）

安達理恵（愛知大学准教授）

栗原文子（中央大学教授）

中山夏恵（文教大学准教授）

自己評価記述文特定諮問会議委員：

小泉仁（座長）（東京家政大学教授，日本児童英語教育学会会長）

阿部志乃（神奈川県横須賀学院小学校英語科教諭）

加藤拓由（愛知県春日井市立鷹来小学校教諭）

竹田里香（姫路獨協大学非常勤講師）

土屋佳雅里（東京都杉並区小学校英語講師）

成田潤也（神奈川県厚木市立厚木第二小学校教諭）

オブザーバー：

池田勝久（文部科学省初等中等教育局教科書調査官）

協力者：

赤井晴子（埼玉県鶴ヶ島市立西中学校教諭，小学校英語育成トレーナー）

犬塚章夫（愛知県刈谷市立小高原小学校校長）

樫本洋子（大阪教育大学英語教育講座・附属池田小学校非常勤講師）

北野ゆき（大阪府守口市さつき学園教諭）

若松里佳（世田谷区英語活動支援員，荒川区英語アドバイザー），他

編集方針

- ・ 『言語教師のポートフォリオ（J-POSTL）』【英語教師教育全編】を基盤とする。
- ・ 小学校教育に資する外国語教育を志向する。
- ・ 外国語活動と外国語の双方を視野に入れる。
- ・ 英語指導者に求められるコア・コンピテンス（資質・能力と授業力）を透明化する。
- ・ 授業力，基礎知識・技術の省察を奨励する。
- ・ 同僚や指導者との話し合いを促進する。
- ・ 資質・能力と授業の自己評価力の向上を目指す。
- ・ 成長を記録する手段を提供する。
- ・ 新学習指導要領との整合性を考慮する。

J-POSTL エレメンタリー【教職課程試用版】の構成と使用法

1. J-POSTL エレメンタリー【教職課程試用版】とは

『小学校英語指導者のポートフォリオ（J-POSTL エレメンタリー）』は、小学校の英語教育を担当する現職教員や小学校教職課程履修生が、自らの専門性を高め、成長するために活用する省察（振り返り）ツールです。現在、まだ開発途上にありますが、その主要な構成要素として 167 項目に及ぶ自己評価記述文を特定しました。この自己評価記述文は、小学校教員が身に付ける必要がある資質・能力と授業力を明示したのですが、167 項目は教職課程の履修生には負担が大きすぎます。そこで、全国の大学英語教職課程担当者対象の調査結果に基づいて、履修生にふさわしいと考えられる 94 項目を選定し、本ポートフォリオを作成しました。「試用版」としたのは、皆さんに継続して使っていただき、**94 項目の妥当性を検証する目的**があるからです。

以上の点をご理解いただき、教職課程や実習先で学んだことを継続的に記録し、自分の成長に役立てるとともに、この**検証作業にご協力くださるようお願い**します。

2. 試用期間

ご指導中の先生と相談の上、本ポートフォリオの利用期間を決めて、以下に書き込んでください。ただし、半年（半期）以上を試用の期間とします

試用開始年月日			試用終了年月日		
年	月	日	年	月	日

なお、試用期間が終了しても、継続して使用していただき、お気づきの点があれば本研究会までご連絡ください

3. 構成と使用方法

3.1 構成

本ポートフォリオは次の 4 つの内容で構成されています。

- (1) **自分自身について**：本ポートフォリオを受け取った時点で、それまでの英語学習経験、教職課程や教育実習に対する期待や不安を書いてください。その上で、できれば同じ履修生の仲間や指導を受けている先生と話し合ってください。ただし、**この記録は報告し**てくださる必要はありません。
- (2) **省察のための自己評価記述文（Can-do 形式による）**：本ポートフォリオの主要な部分には、全 7 分野（Ⅰ 教育環境、Ⅱ 教授法、Ⅲ 教授資料の入手先、Ⅳ 授業計画、Ⅴ 授業実践、Ⅵ 自立学習、Ⅶ 評価）の計 94 項目の自己評価記述文があります。この 94 項目について、**本ポートフォリオを受け取った時点（1 回目）と、利用期間終了時点の 2 回**、自らの到達度に対する意識を 5 段階（5-できる、4-まあまあできる、3-どちらともいえない、2-あまりよくできない、1-できない）で判断した**結果を報告していただきます**（詳し

くは 3.2 を参照してください)。

- (3) J-POSTL エレメンタリー用語解説：本試用版の自己評価記述文には含まれていない用語が多いのですが、教授法の基本的な概念を表わす用語をわかりやすく解説しています。一読しておくことを勧めます。

- (4) 個人学習・実践記録表（英語の学習、英語の授業実践に関わるもの）：本ポートフォリオを受け取ってから、以下の 2 つの分野について記録してください。自己評価記述文に対する自分の判断の根拠や、判断が適切であるか否かを示すための記録で、仲間や先生と話し合うときに利用できます。この記録は報告して下さる必要はありません。

① 英語学習・実践の記録

英語の学習（検定試験受験など）や英語の授業実践（模擬授業や観察、セミナーや学会参加、小学校での英語学習支援ボランティアなど）を記入してください。

② 継続的な学習・実践の記録

①以外の継続的な塾講師、家庭教師や小学校での課外ボランティアなどについて記入してください。

3.2 使用方法

自己評価記述文リストの冒頭に次の欄があります。

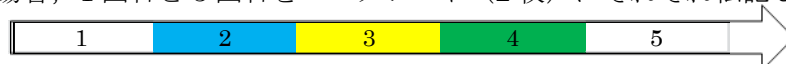
1回目： 年 月 日 / 2回目： 年 月 日 / 3回目： 年 月 日 / 4回目： 年 月 日

- この欄と矢印ブロックには、94 項目すべての記述文に対して自己評価を行った場合に記入してください。随時、部分的に参照したり、振り返ったりすることは奨励されますが、その場合には記入しないでください。自己評価の基準は以下の通りです。

1: できない 2: あまりよくできない 3: どちらとも言えない 4: まあまあできる 5: できる

- 1 回目は、本ポートフォリオを受け取った直後に必ず行ってください。
- 2 回目以降はご自分の判断で決めて結構ですが、目安として半期に 1 回ないし 2 回、通年で 3 回程度が適当と思われます。
- 本ポートフォリオを受け取った時点（1 回目）と、試用期間終了時の 2 回の結果をマークシート用紙（終了時に配布されます）に転記して提出していただきます。
- 各記述文には自己評価をするための矢印ブロックがあります。矢印であるのは、たとえば 5 のレベルに到達したとしても、教師はさらに成長を続ける必要があることを象徴しています。
- 矢印ブロックへの記入方法ですが、各回の自己評価を色で区別することをお勧めします。例えば、次のように 1 回目：黄色、2 回目：青、3 回目：緑で示します。この例のように、1 回目より 2 回目の方が低くなる場合もあります。

* この例の場合、1 回目と 3 回目をマークシート（2 枚）にそれぞれ転記します。



4. 利用方法

① 記録する

- ・ 教職課程履修中に、必要に応じて「個人学習・実践記録表」に自己の学習や教育実践を記録しておきましょう。

③ 省察する（振り返る）

- ・ 教職課程履修中に、少なくとも 3 回は自己評価記述文で自分自身を振り返り、自己の課題について考える習慣をつけましょう。
- ・ 教職履修課程中に、自己分析の資料として活用しましょう。
- ・ 教職に就いた後でも、自分の成長のための振り返りの道具として、このポートフォリオを利用し続けましょう。

③ 相談する

- ・ 教職担当や教育実習先の先生にポートフォリオを見てもらい、適切な助言を受ける機会を作りましょう。
- ・ 教職のあり方や授業実践などについて、学生同士で話し合う機会を持ち、その際にポートフォリオを活用しましょう。

自分自身について

記入日： 年 月 日 (曜日)

1. 過去の英語学習経験

これまで英語を教わってきたことを振り返り，良かった，あるいは良くなかったと思う教え方や授業内容等を自由に記述してください。

a) 良かった内容

b) 良くなかった内容

2. 教職課程に対する期待

教職課程（教科教育法の授業や教育実習など）を通して何ができるようになりたいですか。

3. 教育実習に臨む前の期待と不安

a) 教育実習の指導で楽しみにしていることは何ですか。

b) 教育実習の指導で不安に思っていることは何ですか。

4. 教師の資質・能力

4.1 小学校教員として外国語（英語）を指導する際に大切だと思われる資質・能力は何だと思いますか。次の例のあとに続けて、書き加えてみましょう。また、それぞれの項目はどれぐらい重要ですか。重要度を 5 段階（5-重要である、4-まあまあ重要である、3-どちらともいえない、2-あまり重要でない、1-重要ではない）で判断してください。

	項 目	重要度				
1	他の教員と協力することができる	5	4	3	2	1
2	自分の職務を理解し遂行することができる	5	4	3	2	1
3	文法を説明することができる	5	4	3	2	1
4		5	4	3	2	1
5		5	4	3	2	1
6		5	4	3	2	1
7		5	4	3	2	1
8		5	4	3	2	1
9		5	4	3	2	1
10		5	4	3	2	1

4.2 以下の例を参考にして、履修者同士で、各項目について話し合ってみましょう。

①例えば「文法を説明することができる」に対して、あなたが「5－重要である」と判断した場合、どうして重要だと考えるのかペアあるいはグループのメンバーに具体例を出しながら説明をしてみましょう。

②次に「文法を説明することができる」とはどのような能力なのか、ペアまたはグループで話し合いましょう（例：教員が文法解説をやさしく日本語あるいは英語でできる、生徒に用例を与え、文法規則に気付かせることができるなど）。

～振り返り（省察）の重要性～

「J-POSTL エレメンタリー」では、ただ質問に回答するだけではなく、「4. 教師の資質・能力」のように自らの考えや行動を振り返ることが大切です。

次の「自己評価記述文」においても、与えられた記述文に対して、それぞれの文の意味をよく考え、そのうえで、教職課程で学習した内容や模擬授業を自ら振り返ることで自律した教員へ成長していくことを目指してください。そして、教職担当や教育実習先の先生あるいは履修生同士でそれぞれの考えを共有し、話し合うこと（振り返ること）で教授法などについて多角的に考える機会を作ってください。

皆さんが自律した教員へ成長するためには是非このポートフォリオを役立てていただきたいと思います。

自己評価記述文

1回目： 年 月 日 / 2回目： 年 月 日

3回目： 年 月 日 / 4回目： 年 月 日

1: できない 2: あまりよくできない 3: どちらとも言えない 4: まあまあできる 5: できる

I 教育環境 (Context)

A. 教育課程 (Curriculum)

1. 学習指導要領に記述された内容を理解できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

2. 学習指導要領に従って、小学校英語の教育課程や年間指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

B. 目標とニーズ (Aims and Needs)

3. 英語を学習することの意義を理解できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

4. 学習指導要領と児童のニーズに基づいて到達目標を考慮できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

5. 児童が英語を学習する動機を考慮できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

6. 児童の知的関心を考慮できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

7. 児童の達成感を考慮できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

C. 言語教師の役割 (The Role of the Language Teacher)

8. 計画・実行・反省の手順で、児童や授業に関する課題を認識できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

9. 同僚や授業見学者からのフィードバックを受け入れ、自分の授業に反映できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

10. 授業や学習に関連した情報を収集できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

11. 同僚の授業を観察し、改善のポイントを建設的にフィードバックできる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

12. 児童からのフィードバックや学習の成果に基づいて、自分の授業を批判的に評価し、状況に合わせて変えることができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

13. 児童の母語の知識に配慮し、英語を指導する際にそれを活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

14. 児童と保護者に対して英語学習の意義や利点を説明できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

D. 組織の設備と制約 (Institutional Resources and Constraints)

15. 勤務校における設備や教育機器を、授業などで状況に応じて活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

II 教授法 (Methodology)

A. 話す活動 (Speaking) A-1. やり取り (Spoken Interaction)

16. 児童を話す活動に積極的に参加させるために、協同的な雰囲気を作り出し、具体的な言語使用場面を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

17. 知り合いや初対面の人と挨拶を交わしたり、相手に指示・依頼などをして、それらに応じたり断ったりするための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

18. 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の気持ちや意見を伝え合う力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

19. 自分に関する質問に答えたり、相手のことを尋ねたりする短いやり取りができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

20. 表情、ジェスチャー、あいづちなどの非言語コミュニケーションを効果的に使って、相手とやり取りができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

21. 相手の言ったことに対する確認や聞き返しができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

A-2. 発表 (Spoken Production)

22. 自分の好き嫌い、趣味、得意なことなど、聞き手に伝えたい内容を整理してから、基本的な語句や表現を使って紹介することができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



23. 身の回りの事物や日常生活について、基本的な語句や表現を使って話すことができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



24. 自分の居住地、学校生活、友人・知人に関することなどについて、基本的な語句や表現を使って自分の気持ちや考えを話すことができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



25. 強勢、リズム、イントネーションなどの違いに気づかせるような様々な活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



26. 少ない語彙や非言語コミュニケーションを用いて積極的に話す力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---


B. 書く活動 (Writing/Written Interaction)

27. 児童が文字、語句、表現を、書き写したり書いたりすることへの意欲を高めるような活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



28. 児童が慣れ親しんだ英語の語句や表現を、書き写したり書いたりすることができるようになるための様々な活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



29. 児童が慣れ親しんだ英語の語句や表現を、大文字・小文字の使い方、語と語の区切り、基本的な記号などを意識して書く活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



30. 児童が持っている書く能力を伸ばすために、慣れ親しんだ表現を、語順を意識しながら書き写すことができるような活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---


C. 聞く活動 (Listening)

31. 児童の興味・関心に適した教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---



32. 児童が英語を聞く前に、教材のトピックについて持っている経験や関連知識を使って内容を予測するよう指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

33. 児童が教材のポイントをしぼって聞くことができるような活動を計画できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

D. 読む活動 (Reading)

34. 絵本などの読み聞かせ（音声を伴った、英語の絵本を使った活動）において、児童が内容や文字に関心を持つような活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

35. 児童のニーズ、興味・関心、到達度に適した教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

36. アルファベットを識別し、その読み方を適切に発音することができる力を育成するための活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

E. 文法 (Grammar)

37. 文法は、コミュニケーションを支えるものであるとの認識を持ち、使用場面を提示して、言語活動と関連づけて、児童に気づかせる指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

F. 語彙 (Vocabulary)

38. 児童が適切に自己表現できるようになるための語彙を例示できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

39. 文脈の中で慣れ親しんだ語彙を使用できるような言語活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

G. 文化 (Culture)

40. 英語学習をとおして、自分たちの文化と異文化に関する興味・関心を引き起こすような活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

41. 児童に文化への気づきを促し深める活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

Ⅲ 教授資料の入手先 (Resources)

42. 教科書付属の教師用指導書や補助教材にあるアイデア、授業案、教材を利用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

43. 児童の年齢、興味・関心、英語力に適した教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

44. 児童の英語力に適した表現や言語活動を教科書や教材から選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

45. 個々の児童を考慮した適切な教材や活動を考案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

46. 教科書以外の素材（絵本、事典、図鑑、文学作品、新聞、ウェブサイトなど）から、児童のニーズに応じた教材を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

Ⅳ 授業計画 (Lesson Planning)**A. 学習目標の設定 (Identification of Learning Objectives)**

47. 児童のニーズ、興味・関心を考慮し、学習指導要領の内容に沿った学習目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

48. 年間の指導計画に即して、単元や授業ごとの学習目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

49. 児童の意欲を高める目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

50. 年間の指導計画に基づいて、「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の領域別に観点別評価の目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

51. 児童の習熟度の違いや特別な支援の必要性に配慮した目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

52. 児童が自分の学習を振り返ることができるような目標を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

B. 授業内容 (Lesson Content)

53. 年間の指導計画に基づいて、授業を柔軟に設計できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

54. 児童のやる気や興味・関心を引き出すような活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

55. 児童がこれまでに学習した知識を活用した活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

56. 児童の反応や意見を授業に反映できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

57. 「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」「読むこと」「書くこと」の 5 つの領域が総合的に取り込まれた指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

58. 目標とする学習活動に必要な時間を把握して、指導計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

C. 授業展開 (Lesson Organization)

59. 学習目標に沿った授業形式（一斉、個別、ペア、グループなど）を選び、授業を設計できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

60. ALT や他の教員とのチームティーチングの授業を設計できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

61. 児童同士のやり取りを促す活動計画を立案できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

62. 英語を使う場面、方法、タイミングを考慮して、授業を設計できる。

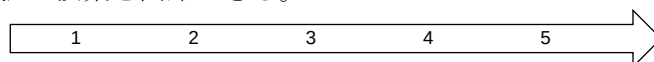
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

63. 児童の発表を促す活動計画を立案できる。

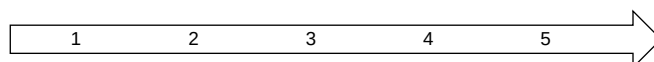
1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

V 授業実践 (Conducting a Lesson)**A. 授業案の使用 (Using Lesson Plans)**

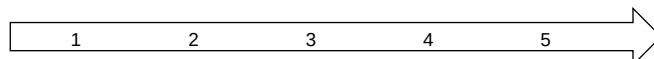
64. 児童の興味・関心を引きつける方法で授業を開始できる。



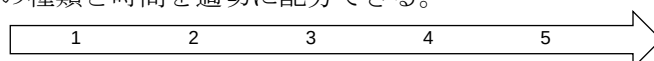
65. 授業案に基づいて柔軟に授業を行い、授業の進行とともに児童の興味・関心に対応できる。



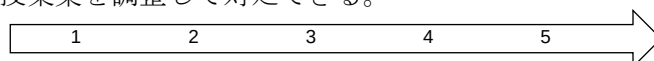
66. 個人活動、ペア活動、グループ活動、クラス全体など、状況に応じて学習の形態を柔軟に調整できる。



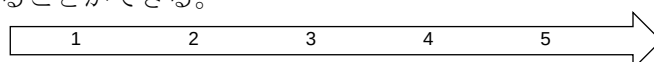
67. 児童の集中力を考慮し、授業活動の種類と時間を適切に配分できる。



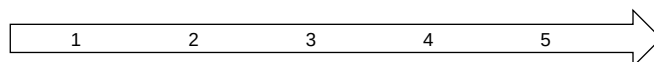
68. 予想できない状況が生じたとき、授業案を調整して対処できる。



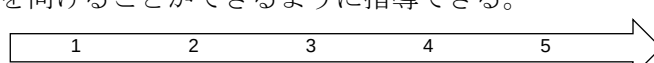
69. 本時をまとめてから授業を終了することができる。

**B. 内容 (Content)**

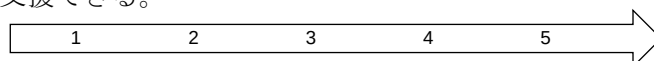
70. 授業内容を、児童の持っている経験、知識、身近な出来事、文化などに関連づけて指導できる。

**C. 児童との交流 (Interaction with Learners)**

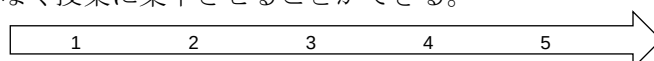
71. 授業開始時に、児童が授業に注意を向けることができるように指導できる。



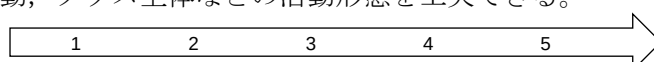
72. 児童中心の活動や児童間の交流を支援できる。



73. 授業中、児童の注意をそらすことなく授業に集中させることができる。

**D. 授業運営 (Classroom Management)**

74. 個人学習、ペア活動、グループ活動、クラス全体などの活動形態を工夫できる。



75. フラッシュカード，図表，絵などの準備や視聴覚教材を活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

76. ICT などの教育機器を効果的に活用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

E. 教室での言語 (Classroom Language)

77. 英語を使って授業を展開するが，必要に応じて日本語を効果的に使用できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

78. 英語の教科内容や学習の方法などを，視覚的ヒント，ジェスチャー，デモンストレーションなどを利用して英語で指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

79. 児童が授業活動において英語を使いたくなるように設計し指導できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

80. 教室で使用されている英語の理解が困難な児童に対して適切な方法で支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

81. 児童の日本語能力を必要に応じて学習内容に関連づけ，活用できるように促すことができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

VI 自立学習 (Independent Learning)

A. 児童の自律 (Learner Autonomy)

82. 児童が自分の学習過程や学習成果を振り返ることができるように支援できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

83. 児童が自分の知識や能力を振り返るために役立つような様々な活動を設定できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

VII 評価 (Assessment)

A. 測定法の考案 (Designing Assessment Tools)

84. 授業の目的に応じて，多様な評価方法（例：ポートフォリオ，自己評価，相互評価など）を選択できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

B. 評価 (Evaluation)

85. 信頼性があり透明性がある方法で，成績評価ができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

86. 児童の英語運用力が向上するように、本人の得意・不得意分野を指摘できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

87. 個人学習と協同学習における児童の能力を評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

88. 妥当性のある評価尺度を使って、児童の学習活動を評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

C. 自己評価と相互評価 (Self and Peer Assessment)

D. 言語運用 (Language Performance)

89. 話したり書いたりする能力を適切に評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

E. 国際理解(文化) (Culture)

90. 日本の文化と外国の文化を比べ、その相違への児童の気づきを評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

91. 異文化に関する児童の意欲・関心・態度を評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

92. 異文化に接した時に、適切に対応し行動できる児童の能力を評価できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

F. 誤答分析 (Error Analysis)

93. 児童の誤りを分析し、適切なフィードバックができる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

94. 児童の誤りに対して、授業の流れやコミュニケーション活動の妨げにならないように対処できる。

1	2	3	4	5
---	---	---	---	---

J-POSTL エレメンタリー 用語解説

英絵辞典(English picture dictionary)

英語の語句の解説とともに、その事物を表すイラストや写真が掲載され、視覚でも理解できるように作られた辞典のこと。

オーセンティック(authentic)

外国語学習用として意図的に作られたものではなく、学習している目標言語が使われている社会で、母語話者が実際に使用しているテキストや音声を教材にする場合、それをオーセンティック (authentic)な教材という。例えば、海外で実際に使われている掲示、標識、紙幣やコイン、売られている品物やその説明書き、発行されているパンフレット、雑誌、新聞、教科書、放送されているラジオやテレビ番組、あるいは映画や DVD などが含まれる。

学習スタイル(learning style)

学習者個々の学習方法の好みを指す。学習のさまざまな場面に対処する方法には個人差があり、一般的には認知スタイルとも言われ、学習者要因の一つである。理科系が得意とか文系が得意とか、活動的な学習が優れているとか、芸術的な学習の方が向いているとか、情報を認知処理する方法にはいろいろな類型がある。

カリキュラム・マネジメント(curriculum management)

「カリキュラムとは、教育計画だけを指すのではなく、実施された内容、およびその成果までを含めている。問題を解決するための手立てを具体的に計画し、実践し、その評価を行い、よりよいものに改善していく。その一連の作業を、カリキュラム・マネジメントと言う（田村他，2011）。」特に小学校外国語教育においては、教員の意識改革、小学校英語観の共有などの学校の組織文化が、カリキュラム・マネジメントを成功させるポイントになる、という指摘がある。詳しくは次のウェブサイトを参照：

http://www1.gifu-u.ac.jp/~totamura/file/study2/guide_book.pdf

グループリーディング(group reading)

学習者グループで英文を読ませる指導法。グループ全員で一斉に読む、順番に一文ずつ音読する、教師が文をなぞる指の動きに合わせて一斉に読むなどの方法がある。国語の授業で使われる役割読みもグループリーディングと言える。これらの方法は、個人で英語を読む心理負担を軽減するためや、学習者ひとり一人に責任を持たせたり、一人で読む回数をできるだけ多くする目的がある。

形成的評価(formative assessment)

指導が適切に進行しているかどうかを点検するために、指導過程の途中で行われる評価。学習者の行動観察、発問に対する応答の観察、小テストの結果の分析などがある。基本的には、この評価を学期末の評定には使わない。評価には他に、医師が行うような診断的評価、成績評定をつけるために行う学年末試験などの総括的評価などがある。

コア・カリキュラム(core curriculum)

「学習者の生活上の問題を解決するための学習を中核におき、その周辺に基礎的な知識・技術を学習する課程を配する教育課程」(大辞林第3版)のこと。例えば、次期学習指導要領に基づいて作成された、小学校教員教職課程の外国語(英語)のコア・カリキュラムでは、外国語に関する専門的事項として、「授業実践に必要な英語力」(4技能5領域)と「英語に関する背景的な知識」(英語に関する基本知識、第2言語習得、児童文学、異文化理解)があげられている。各教員養成大学はこの規定に基づいて、小学校の英語教職科目を設置することになる。詳細については次のウェブサイトを参照：

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/126/shiryo/_icsFiles/afieldfile/2017/04/12/1384154_3.PDF, または, <http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/>

社会文化的能力(socio-cultural competence)

日本語における敬語など、コミュニケーション能力に含まれる言語的、機能的、談話的な知識を適切に使う能力のこと。日常生活に関する事柄、住環境、対人関係(年齢、性別、社会階級により異なる)、身体言語に関わる慣習の知識などが社会文化的能力を形成する。小学校の外国語学習段階では、この能力をつける活動を設定することは難しいという意見もあるが、挨拶や簡単なやり取りの場面でも、気づきを促すことはある程度可能である。例えば、初対面の挨拶で、”How do you do?” “How are you?” “Hello.” “Hi.”などの使用域(レジスターという)の違いや、命令文だと強制的に響くから “please”をつけたり、“Would you ...?”とか “Could you ..?”で始めれば丁寧な言い方になるなどを気付かせるような場面を設定し、ロールプレイを行う、というようなことが考えられる。

受容語彙(receptive vocabulary)

意味が理解でき、聞いてわかる程度に習熟しているが、話したり書いたりするレベルに達していない語彙。学習者の習熟段階によって異なるので、レベルに応じて判断する。例えば、教室英語などで教師が繰り返し使う語彙や、絵本の読み聞かせなどで、絵を見てわかるような語彙は、学習者に理解されるようになるので、必要がなければ、学習者に指導はしない。(⇒「発信語彙」参照)

スキミング(skimming)

リーディング活動の内の速読の一つで、例えば、新聞の見出しを参考にしながら、記事の大意や概略を把握するために、素早く全体に目を通す読み方。(⇒「スキヤニング」参照)

スキヤニング(scanning)

リーディング活動の内の速読の一つで、例えば、新聞のテレビ欄で見た番組を探したり、広告やパンフレットで求める品物などを探したりするように、自分にとって必要のない情報は読み飛ばし、必要な情報を求めて素早く読む方法。(⇒「スキミング」参照)

ストラテジー：方略(strategy)

ある課題を達成するための計画、手順、方法のこと。例えば、教授方略に関しては、教える側のプロセスを9段階で示した、教育心理学者ロバート・ガニエの「9教授事象」が有名である。(1)学習者の注意を獲得する、(2)授業の目標を知らせる、(3)前提条件を思い出させる、(4)新しい事項を提示する、(5)学習の指針を与える、(6)練習の機会をつくる、(7)フィードバックを与える、(8)学習の成果を評価する、(9)保持と転移を高める。また、学習方略は、学習をより早く、より効果的にするために学習者が行う具体的な行動で、言語教育学者のレベッカ・オックスフォードは、目標言語に直接かかわる直接的方略と、目標言語には直接関係せずに学習を支える間接的方略に分類し、前者は①記憶、②認知、③補償に、後者は①メタ認知的②情意的③社会的に分けることを提案している。

発信語彙(productive vocabulary)

発表語彙ともいう。話したり書いたりできる程度に習熟している語彙。特に、日常的に使用頻度の高い語彙が相当する。また、教室の言語活動で、学習者に与える言語材料(単語や表現)は、基本的に発信語彙と考え、習熟するまで繰り返し練習させる指導が必要である。(⇒「受容語彙」参照)

非言語コミュニケーション(non-verbal communication)

身振り言語(笑顔やウィンクなどの顔の表情、アイ・コンタクト、「大丈夫だ」とか「OK」を意味する親指を立てるしぐさなどを含む様々なジェスチャー)、話している相手との距離、時間の概念、パラ言語(言語行動に伴う声の質、テンポ、声色、大小、リズムなど)を含むあらゆる形態の、言葉に依らないインタラクションの総称。同じ文化圏においては仲間から理解される信号となるが、異文化間のコミュニケーションにおいては、誤解の要因になるので、特に身振り言語の文化間の意味の差異に関する指導は必要である。

プレゼンテーション・ツール(presentation tool)

プレゼンテーション(発表)に用いられる道具のことで、ポスターやビデオ映像のほか、昨今ではデジタル機器で見せるスライドを指すことが多い。

プロジェクト学習(project-based learning)

学習者中心の学び方である。学習者に課題を与え、協同で行う調べ学習や、学習者が発見した課題に対して、学習者自身が目標を設定し、問題解決過程において協同学習などを通して、主体的かつ創造的な学びを生成する学習のこと。

引用・参考文献

- 白畑知彦・富田祐一・村野井仁・若林茂則.(2015).『改訂版 英語教育用語辞典』大修館
田村知子他.(2011).『カリキュラムマネジメントを促進する 教員研修の 企画・運営ガイド』 http://www1.gifu-u.ac.jp/~totamura/file/study2/guide_book.pdf
文部科学省.(2017).『外国語科 外国語活動 研修ガイドブック』
米山朝二.(2011).『新編 英語教育指導法事典』研究社

① 英語の学習・実践の記録

実施日	学習・実践事項	概要	コメント	資料の有無
(例 1) 2019 年 11 月	英検の受験	英検 2 級の公開テストを受験。	1 次試験（筆記）は通ったが、2 次（スピーキング）で失敗。来年再挑戦する。	○
(例 2) 2020 年 5 月 15 日	第 1 回模擬授業	英語科教育法の授業で、2 人 1 組で 20 分間の模擬授業を実施。対象：小 6。各担当 10 分。	準備不足のため、時間内に指導案の内容を終えることができなかった。今回は、事前に時間を計って、十分に準備をして臨みたい。	○

--	--	--	--	--

② 継続的な学習・実践の記録

①以外の継続的な塾講師，家庭教師や小学校での課外ボランティアなどについて記入してください。(例：仲間とのプロジェクト学習，塾講師，家庭教師，課外補習ボランティア，学校行事補助など)。

実施 期間	学習・実践事項	概要	コメント
(例) 2020 年 9 月 10 日 ～2021 年 3 月 20 日	家庭教師 (小学 5 年生 1 名)	週 1 回 2 時間，小学 5 年生 を対象に，家庭教師をし た。特に英語の文字の読み 書きを中心に教えた。	最初は，なかなか上手に教 えることができなかった が，フォニックスのテキス トを利用し始めたら自分 でも学ぶことが多く，徐々 に効果が上がり，子どもも 何とか読んだり書いたり できるようになった。

--	--	--	--

.....
『小学校英語指導者のポートフォリオ』（教職課程試用版）

Japanese Portfolio for Elementary English Educators

発行日：2018年8月25日

編集発行人： JACET 教育問題研究会（代表：清田洋一）

（編集代表：久村研）

URL: <http://www.waseda.jp/assoc-jacetenedu/>

印刷所：株式会社CUCサポート ドキュメントセンター

〒272-8512 市川市国府台1-3-1

電話：047-710-4672

- ・ 本ポートフォリオは，平成28～30年度文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(B) 研究課題番号16H03459（研究代表：神保尚武）の研究補助費を受けて作成したものである。
- ・ 本書の一部あるいは全部を引用または複写複製する場合には，本書より引用したことをお断り下さい。

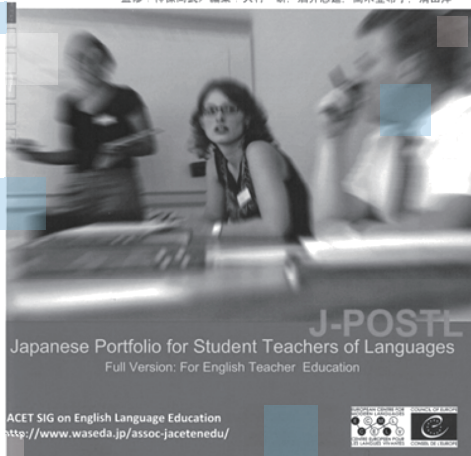
原作:ヨーロッパ言語教育履修生ポートフォリオ
EPOSTL (European Portfolio for Student Teachers of Languages)

成長のための省察ツール

言語教師のポートフォリオ

【英語教師教育全編】

JACET教育問題研究会 編
監修: 神保尚武 / 編集: 久村 研、酒井志延、高木亜希子、清田洋一



成長のための省察ツール

言語教師の ポートフォリオ

JACET教育問題研究会 2014
<http://www.waseda.jp/assoc-jacetedu/>

監修: 神保尚武

編集: 久村 研

酒井志延

高木亜希子

清田洋一

■ 「言語教師のポートフォリオ」は中等教育の言語（英語）教師のための省察ツールです。このポートフォリオの主な特徴は次の通りです。

- ・ 英語教師に求められる授業力を明示する。
- ・ 授業力とそれを支える基礎知識・技術の振り返りを促す。
- ・ 同僚や指導者との話し合いと協働を促進する。
- ・ 自らの授業の自己評価力を高める。
- ・ 成長を記録する手段を提供する。

■ 本ポートフォリオの中核には、Can-Do形式の180の自己評価記述文があります。これらの記述文は、授業力に関する系統的な考え方を提供しており、単なるチェック・リストではありません。教職課程の履修生、現職教師、実習や教員研修の指導者・メンターなどが利用したり、お互いに意見を交換したりする際に、省察を深めるツールとして機能すること、教職の専門意識を高める役割を果たすことが期待されます。

大学英語教育学会（JACET）教育問題研究会
JACET SIG on English Language Education
<http://www.waseda.jp/assoc-jacetedu/>